

本書の特徴と使い方

輸血は、すべての診療科で必須の医療知識です。しかし、輸血の指導を受ける時間が少なくなり、このままでは知識が浅いま、実際の輸血の場面に立つことになるおそれがあります。もし、不適切な輸血が行われると、患者に不幸を招き、医師と病院の責任が厳しく問われます。そこで学生あるいは研修初期に輸血療法の最低限の知識を平易に学んでいただけるように、このテキストを作成しました。

1. この本は研修医から輸血認定技師や輸血認定医を目指す方々のほか、看護学生、医学部学生の皆さんが理解できるように平易な文体で書いてあります。
2. 重要な内容はそのページごとに“スライド”を見ているかのようなチャートとして描いてあります。また、イメージをつかみやすいように写真やイラストを多く用いています。
3. 各項目の冒頭には『実践のためのポイント』として、輸血医療を実践する際に、マスターしてもらいたいことや注意点を箇条書きにまとめました。
4. 検査法や安全対策についてフローチャートで手順を示すなど工夫してあります。
5. 各科における輸血について、Q&A形式でケーススタディができるようになっていきます。実際に患者さんを担当しているつもりになって読んでみてください（5章、p100～120参照）。
6. 輸血に関する計算式を取り上げています。できるだけ簡易な計算法を覚えましょう。
7. 必ず覚えておかなければならないこと、安全上重要な事項は色文字や太文字で強調してあります。
8. 輸血の歴史や豆知識などのコラムを加えてあります。
9. 『セルフアセスメントテスト』として、問題と解答・解説を巻末に配置しました。国試、認定試験など各種のテスト対策や、知識を深めるのに役立つと思います（p162～191参照）。
10. 付録として、『実習の手引き』（血液型判定と交差適合試験）を巻末に記載しました。医学部、臨床検査学科、看護学部、最近では薬学部の実習に血液型検査と交差試験が行われるようになりました。その際にご利用ください（p192～202参照）。

